

スクリーン ミニレポ

本誌は、当社の最新のニュースと事業活動をお知らせする月刊情報誌です。

目次

- ・役員委嘱業務の変更・人事異動・機構改革およびグループ会社人事について
- ・IGAS展レポート
- ・台湾大地震での当社の対応
- ・業界最大サイズ対応の液晶製造装置を発売
- ・世界最高速！モノクロデジタル印刷システムを開発
- ・遠隔地の印刷に対応した RIP システムを開発

役員委嘱業務の変更・人事異動・機構改革およびグループ会社人事について (9月28日付け発表)

10月1日付 役員委嘱業務の変更

(カッコ内は旧委嘱業務)
 羽田 運男 代表取締役専務取締役
 経営企画担当
 半導体機器・電子機器事業担当
 (代表取締役専務取締役
 経営企画担当
 半導体機器・電子機器事業担当
 安全保障貿易管理室長)

10月1日付 部長級の異動

(カッコ内は旧職)
【経営企画本部】
 竹本 潔史 国際業務部長
 安全保障貿易管理室長
 (国際業務部長
 安全保障貿易管理副室長)
 大西 徹 情報システム部長
 (販売管理部長)

【総務本部】

本田 允秀 総務部担当部長
 (東京総務部長)
 糸岡 晃 人事部担当副部長
 (情報システム部長)

【開発本部】

上田 喜弘 生産技術研究所長
 (生産技術研究所準備室長)

【グラフィックアーツ事業本部】

守屋 健 名古屋支店長
 (東京副支店長)
 犬飼 義雄 販売管理部長
 (名古屋支店長)

10月1日付 組織変更

【総務本部】

東京総務部を廃止

【開発本部】

(1) 生産技術研究所準備室を廃止
 (2) 生産技術研究所を新設

9月30日付 グループ企業の社長人事

ユニソル(株) 太田興一郎*

*注: 当社100%出資会社(株)ペー
 ジコンプ研究所の代表取締役社
 長を兼務。

10月1日付 海外子会社2社を統合

画像情報処理ソフトウェアの開発をする
 Island Graphics Co.(米)と同ソフトウェア
 開発および生産を担当する Dainippon
 Screen Engineering of America Inc.
 (DSEA(米))は統合しました。存続会社は
 DSEAです。

IGAS展レポート

9月20日～24日の5日間、東京ビッグサイトで開催された国際グラフィックアーツ総合機材展「IGAS99」は、約18万人もの見学者が訪れ、盛況のうちに幕を閉じました。当社は、CTPレコーダーやデジタル印刷システムなど新製品をラインアップし、多くの来場者で賑わいました。印刷のデジタル化の進展にあいまって特に注目を集めた製品は、昨年リリースしたA3ワイドサイズの4色デジタル印



当社の提案に耳を傾ける来場者

刷機、そして今回開発したA2ワイドサイズの2色デジタル印刷機、A3ワイドサイズの超高速モノクロデジタル印刷機の3機種で、当社のグラフィックアーツビジネスが印刷業界も含めた領域に拡大していることをアピールしました。そのほか、印刷工程の効率化・コスト圧縮を目指したネットワーク分散型印刷システムや広域高速大容量ネットワークサービスも紹介し、未来志向の印刷システムの提案に多くのユーザーから賛同を得ました。



来賓として通産省政務次官高市早苗氏が当社ブースを訪れた

台湾大地震での当社の対応

9月21日に発生した台湾の大地震に対し、当社では緊急対策本部を設置。陣頭指揮を取るために数名を現地に派遣し、海外現地法人DSTWの社員とともに半導体・液晶製造装置や印刷関連機器のユーザーを訪問し、装置チェックを実施しました。

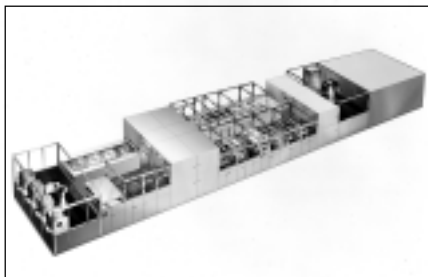
いずれのユーザー先においても被害は軽微であったため、10月中旬には復旧が完了。搬入作業中の製品についても全ユーザー先において作業を再開しています。なお、当社の現地従業員および現地への出張者は、地震発生当日中に全員の無事が確認され、台北、新竹の事務所についても被害がなかったことが報告されています。

業界最大サイズ対応の液晶製造装置を発売～第4世代ガラス基板サイズをいち早くサポート(10月25日付け発表)

当社は、最大で800mm×950mmのサイズのガラス基板が処理できる液晶(LCD)製造装置「750」シリーズを開発、10月27日から販売を開始しました。今回開発したのは、液晶製造の前工程、レジスト(感光)液を塗布・現像するコーター/デベロッパー「SK-750G」、ガラス基板洗浄装置、薄膜エッチングプロセッサ、レジスト膜剥離プロセッサの4機種。

パソコン用TFT液晶パネルが急速に伸びているなか、液晶パネルはますます大型化・高精細化が進む一方で、製造コストの削減、生産性の向上が求められています。「750」シリーズは、ガラス基板1枚から最大18インチパネルが6枚採れ、第4世代と呼ばれる大型ガラス基板サイズ

800mm×950mmに対応。ガラス基板を傾斜させて洗浄・エッチング・剥離処理できるため、薬液や純水、エアの消費量を抑制することでランニングコストを大幅に低減しました。また、薬液リサイクルシステムを現像と剥離装置に採用し、環境に配慮した設計を採用しています。なおこれらの装置は、10月27日～29日にパシフィコ横浜で開催されたLCD/プラズマディスプレイパネル(PDP)の総合機材展「LCD/PDP International 99」にパネル展示し、好評を得ました。



「SK-750G」の全景。価格は4.8～7億円

世界最高速！モノクロデジタル印刷システムを開発(9月20日付け発表)

当社は、A4毎時12,000枚という電子写真方式カットシート印刷システムでは世界最高速のスピードで印刷できるモノクロデジタル印刷システム「NP-V200」を開発しました。

新たに開発したコントローラー「HC-210-V」は、米国アドビシステムズ社の最新インタープリターを搭載。DTPで制作されたPostScriptファイルやPDF、TIFFなどのデータをRIP処理し、大量ページを丁合出力します。さらに、ネットワークを通じて、遠隔地からも印刷システムの管理が可能です。

ビジネス文書やマニュアルなどドキュメント印刷はもちろんのこと、パーソナライズされた印刷情報を発信する「One to One」マーケティングの印刷物や実用化されつつある書籍1冊からの出版などにも最適なオンデマンド印刷の環境を提供します。



初年度販売台数100台

遠隔地の印刷に対応したRIPシステムを開発(9月20日付け発表)

当社は、印刷のネットワーク分散環境に対応したインテリジェントRIP「Trueflow(トゥールフロー)」を開発し、1999年12月に発売します。

「Trueflow」は、米国アドビシステムズ社の最新インタープリターを採用したRIPシステム。RIPシステムとは、一般的にDTPからページデータを受け取り、フィルムやプレートを用いた出力機に出力できるようデータを変換するシステム

のこと。遠隔地の印刷部門でも配信されたデータを単に出力するだけで、同じ結果が得られ、文字化けや絵柄の抜けなどの予期せぬトラブルに対する不安を解消します。

また、デザイン・制作企画・製版・印刷などの部門では、印刷前のデータをパソコンのカラーモニター上で確認でき、見たままのデータを印刷できるという安心感が得られます。

参考価格は、950万円～1,600万円(システム構成により異なる)。年間販売予定数450台。



by MIXA IMAGE LIBRARY

スクリーンミニレポ No. 212
1999年10月29日発行

大日本スクリーン製造株式会社

〒602-8585
京都市上京区堀川通り寺之内上ル4丁目
Tel 075-414-7131
Fax 075-431-6500
発行人：広報室 齋藤牧夫

